

## 遊漁船の落水者対応訓練ポイント（詳細版）

本訓練では、落水者を船上に引き揚げるための手順と、救命浮環やはしご等の必要な機材の取扱等を確認するものである。訓練の実施に当たっては、参加者の安全を第一とし、参加者の習熟度や力量を考慮し訓練を行い、訓練内容等を徐々にステップアップさせていくことが望ましい。

### 1. 訓練実施計画の作成と準備

#### (1) 訓練の時期・日時について

- ・実際に営業を行っている時期・時間帯を想定の上、海況等が安定している時期・時間帯等を選定する（厳冬期や夜間の訓練は避ける。）。
- ・天候等により実施できない場合を想定し、予備日を設けておく。

#### (2) 訓練場所について

- ・他船の航行の往来に支障とならず、乗揚げ、他船の航走波による自船と岸壁等構造物との圧着等、訓練への危険性がない場所とする。

#### (3) 天候・海象について

- ・訓練時の天候は、業務規程に基づく出航中止基準を越えないものとする。なお、初めて訓練を行う場合は静穏な天候・海象時に行うものとする。

#### (4) 参加遊漁船・参加者について

- ・訓練を実施するに際しては、実施者以外に、落水者以外の旅客を想定した者、活動の補助や万一の事故の場合の連絡に備えた船上補助者を配置させる。
- ・複数の遊漁船業者がまとまって実施することが望ましいが、見ているだけの参加者が発生しないよう役割分担に配慮する。単独で実施する場合は、安全確保や記録のため補助者の確保に努める。

#### (5) 使用機材について

- ・救命胴衣は、桜マーク付きのもの（磯等渡しを想定する場合は、使用環境に応じて型式承認品と同等以上の性能を有する救命胴衣等でも可）を準備する。
- ・はしご等については、落水者が船上に揚がることを念頭に準備する。
- ・船上から落水者の引揚げを補助するためのロープ等については、落水者が自力で船上に揚がれない場合を念頭に準備する。
- ・ウェットスーツについては、水温の低い時期に実施する場合に準備する。また、貝等の海面付着物により手足等身体を負傷しないよう、ウェットスーツや衣服のほか、靴を履くことが望ましい。
- ・ロープ付きの救命浮環のほか、手軽に作成・使用可能とされている、ア

バ（手のひらサイズ大の浮体、以下「非常用投浮」という。）についても準備し訓練しておくとうい。

(6) 救助訓練計画の策定等について

- ・ 訓練計画は前記各号に留意のうえ策定し、実施場所での必要性に応じ、港湾管理者、港長等から許可を受けること。
- ・ 許可申請に際しては、十分余裕を持って手続きを行うとともに、訓練当日の天候等を勘案し予備日を設けて申請することが望ましい。

(※ 実施場所（漁港・港湾内、航路等）により申請先が異なるので、都道府県においては、関係機関に事前確認し情報提供できるようにしておくことが望ましい。)

(7) 参加者同士による打合せについて

- ・ 訓練前に、参加者同士による訓練手順の確認、疑義を解消する等、十分な打合せを行っておく。

## 2. 訓練内容

(1) 落水者発生時の初期動作

救命浮環等の投下指示や関係機関等への連絡等、落水者発生時の初期動作について確認する。

(2) 落水者への接近訓練について

落水者にみたとたブイ等を使用し、目標物への航走接近の慣熟を行う。

**【注意事項】**

落水者の直近に接近、又は接触することは、

①船体や推進器により落水者を受傷させる恐れ

②自船航走波の影響による、落水者の溺水誘発及び船位保持の不安定

③落水者が磯や堤防近くに漂流している場合、潮流、磯波の影響による、船位保持の不安定、乗揚げ等の危険

があることから、落水者の直近まで接近するのではなく、救命浮環または非常用投浮を落水者へ投下・引寄せができるような、自船及び落水者共に危険性がない距離を確保したうえでの接近とする。

この際、落水から接近までの間、落水者の監視を乗船者または操船者により必ず継続して行うこと。

なお、非常用投浮は救命浮環ほどの浮力はないものの、遠投するには極めて有効である。

(3) 落水者の引き寄せ方法の確認

落水者を配置し、ロープ付きの救命浮環を落水者へ投下し、落水者が掴んだのち引寄せる訓練を行う。非常用投浮を準備していた場合は、併せて使用し、投下可能な距離等を確認する。

#### 【注意事項】

- ①引き寄せる勢いが強いと落水者に過度の水圧をかけ溺れさせてしまうため、動力を使用せず手繰りで慎重に行うこと。
- ②喫水が浅い船の場合、船体動揺により落水者が船底に吸いこまれることがある。落水者がプロペラ直近にいるときは、受傷防止のため、推進器を駆動させないように注意する。

#### (4) 落水者の引き揚げ方法の確認

落水者をはしご等により引き揚げる訓練を行う。また、落水者の引揚げに必要な人数を確認する。

#### 【注意事項】

- ①はしご等の設置箇所については、舷側が垂直面であれば登りやすいが、船首側のような面のせり上がりがあると登りにくいため、設置に適した箇所を確認しておく。
- ②金属性のはしごを使用する場合、船体動揺により、はしごと舷側に手を挟まないよう注意する。
- ③喫水が浅い船の場合、船体動揺により落水者が船底に吸いこまれることがある。落水者がプロペラ直近にいるときは、受傷防止のため、推進器を駆動させないように注意する。
- ④はしご等への一步目の足がかりがスムーズに行えれば、はしご登りが容易になるため、はしごの最下段は、海面下の足がかりがしやすい位置とすること。
- ⑤大柄の者や体力が弱い者が、自力で登るに困難な場合、補助するロープ等を用いて船上からも引揚げを支援する。

#### 【ロープを使用した支援例（参考）】

- ①ロープを落水者の救命胴衣や衣服（ベルト等）に結着させる。
- ②ロープと繋いだ救命浮環やもやい結びなどをしたロープの輪を、落水者の身体に「たすきがけ」にする。  
(ロープの輪が締まると肋骨等身体に負担がかかるので留意する。もやい結び等の輪は、ある程度太いロープを用いるか、落水者に毛布をかけその上から用いると負担が少ない。)

### 3. その他・訓練実施後の対応

#### (1) 訓練の実施頻度について

少なくとも1年間に1回以上は行うこととし、自船の状況の変化（乗組員の交代等）にも応じて適切に行う。

#### (2) 記録の作成について

訓練の効果を上げるためにも、訓練を実施した場合には、実施した内容

の記録を行う。また、訓練で浮かび上がった問題点等を検討し、落水者を想定した自船に適した最善の機材と方法を整えておき、いざという時に直ぐ様使用できるよう、備えておくことが重要である。

また、実際に救助を行った場合は活動内容を記録しておく。

**【非常用投浮（ひじょうようとうふ）】**

浮子（あば）と呼ばれる漁具にも使用されている“浮き”にロープを取り付けたもの。落水者に向けて投げ入れ、掴まらせて、たぐり寄せ救助する簡易救助具で、簡単に作ることができ、容易に取り扱うことができる。また、救命浮環に比べ遠くまで飛ばすことができる。

(お問合せ先)

水産庁資源管理部管理調整課

沿岸・遊漁室

ダイヤルイン：03-3502-7768 FAX：03-3595-7332

## 落水者対応訓練計画（例）

### 1. 実施日時

〇〇年〇月〇日（〇曜日） 〇〇時～〇〇時

（予備日：〇〇年〇月〇日（〇曜日）、〇〇年〇月〇日（〇曜日））

（※天候悪化等を想定し、予備日を設けておく。）

### 2. 実施場所

〇〇漁港港内、〇〇港〇〇岸壁付近

（※実施場所により、必要な許可等について確認する。）

### 3. 参加遊漁船・参加者

船名：船長（氏名）、業務主任者（氏名）、従業員（氏名）

（※参加遊漁船・参加者が多い場合は、〇隻、〇人等とし、詳細は別紙としてもよい。）

### 4. 使用機材

（※参加遊漁船ごとの使用機材を記載する。）

### 5. 訓練内容

#### （1）目的

#### （2）落水者発生時の初期動作の確認

#### （3）落水者への接近方法の確認

#### （4）落水者の引き寄せ方法の確認

#### （5）落水者の船上への引揚げ方法の確認

①はしごの設置・使用方法

②落水者の船上への引揚げ手順、船上からの補助方法

（※安全面についても付記する。）

#### （6）その他

（※記録係等について記載、複数者で交替し、訓練に参加できるように配慮する。）

### 6. その他

#### （1）天候・海況等による中止等の基準

①波高〇メートル以上、風速〇〇メートル以上、視程〇メートル以下又は、水温〇℃以下の場合（見込みも含む）は訓練を中止・延期する。

（※出航中止基準、帰航基準等を参考に設定する。）

②訓練開催、中止・延期等の意思決定

・前日の〇〇時までに、A丸船長（氏名）がB丸船長（氏名）とC丸船長（氏名）と協議し決定する。

- ・延期の場合は予備日に実施する。予備日で実施できない場合は中止とする。
- ・その他、官公署からの指示により中止・延期とする。

(2) 連絡体制

①訓練参加者の連絡体制（A丸船長から各船船長に連絡する。）

A丸（船長氏名、tel:0X0-XXXX-XXXX）

→ B丸（船長氏名、tel:0X0-XXXX-XXXX）

→ C丸（船長氏名、tel:0X0-XXXX-XXXX）

②訓練中に事故が発生した場合には次の連絡先に通報する。

〇〇海上保安部（tel:118）

〇〇警察署（tel:110）

〇〇消防署（tel:119）

落水者対応訓練記録（例）

1. 実施日時

〇〇年〇月〇日（〇曜日） 〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分

2. 実施場所

〇〇漁港港内、〇〇港〇〇岸壁付近

3. 参加遊漁船・参加者

（※参加遊漁船・参加者が多い場合は、〇隻、〇人等とし、詳細は別紙としてもよい。）

4. 訓練状況・反省点

（1）目的

（2）落水者への接近方法の確認

（3）落水者の引き寄せ

（4）落水者の船上への引揚げ

①はしごの設置・使用方法

②落水者の船上への引揚げ手順、船上からの補助方法

（5）その他

5. その他

（1）気象・海象

①訓練開始時の気象海象

天候           、風向・風速           、波高           、視程           、水温           

②訓練終了時の気象海象

天候           、風向・風速           、波高           、視程           、水温           

6. 写真記録

日時・概要	写 真
〇年〇月〇日〇時〇分 (概要)	

（※適宜、台紙を増やして記載する。）